



ニュースレター

2022年（令和4年）4月5日 グリーフワークかがわ広報部

グリーフワーク・デー 街頭キャンペーン 活動報告

こどものグリーフワークデー街頭キャンペーン

今年も3月11日～16日までのこどものグリーフワーク週間に合わせて、3月13日（日）にJR高松駅前前で普及啓発の街頭キャンペーンに参加しました。昨年に引き続きキャンペーンでは赤い羽根共同募金で参加しているテーマ募金の募金活動も行いました。今年も4歳から7歳のこども4名が参加してくれ、元気にキャンペーンに協力してくれました。また今回は香川県障害福祉課の蓮井さんが配布用にと心のケア相談の啓発ティッシュを持って来て助っ人として参加してくださいました。



大変心強いご協力に法人一同心より感謝いたします。

なかなか終わらないコロナ禍の影響で大人は勿論のこと、子ども達にも死別や離別とはまた違うぼんやりとした小さいかもしれないが沢山の喪失が降りかかっています。以前にはみんなで一緒に泥だらけになりながら大声で騒いで遊んでいた事が今は遠い記憶になっています。物心つ

く前にコロナ禍が始まった子どもにとっては、本来なら日常的に行う人とのコミュニケーションの機会がなかったために、不意にそのような場面になるとどうすればよいのかが分からなくて戸惑っているように感じます。人と触れ合う事で学ぶ大切な機会がどうしても失われているのが現状だと、小さな子たちを見ていると強く感じます。また、コロナ禍に加えて今年はウクライナへのロシアの軍事侵攻がメディアで大きく報じられ、ショッキングな場面が不意に目に飛び込んできます。大人が話す内容もそれらに加わり、子どもは正体ははっきりしない不安にさらされていると思います。

子どもはやはり大人のように自分の気持ちをしっかりと伝えることがまだ上手くありません。自分が何故不安に思っているのか、或いは不安なのかどうなのかも分からないということもままあります（年齢や性格など勿論個人差はありますが）。大きな喪失を経験するとき、人は視野が狭くなりがちで自分の事で精一杯になりますが、そのような時に子どもも同じ状態であるというのを我々大人はしっかりと意識することがとても大切です。「小さいから、まだ子どもだから大丈夫」という事は

ありません。言葉で表せない分、他の部分で反応しています。周りの大人はこのように時こそゆっくりと丁寧に子どもの気持ちを尋ねることが大切で、一緒にいてあげる事、安心を与えることが必要です。

グリーフワークかがわでは喪失を経験した方が新しく次の一歩を進めるようサポートしていますが、それは大人だけの事ではなく、子どもに対しても勿論同じです。きちんと話を聴いてくれ寄り添ってもらった経験は必ず記憶に残り、将来への糧となります。時間の掛かる事かもしれませんが、私たちが大人の喪失経験に寄り添うのと同じように子ども達に寄り添う事で、その子たちが大きくなったら寄り添う側にしっかり立ってくれると思います。街頭キャンペーンで元気に啓発チラシを配る子ども達と、歩みを止めて子どもの目線になるようしゃがんでチラシを受け取り、お話しをしてきている大人を見て、今日の子どもの達もきっと大きくなったら同じように小さな子に寄り添ってくれるだろうと思いました。

認定グリーフカウンセラー ローマ真由子

グリーフワークかがわちびっこ隊大活躍

3月13日(日)こどものグリーフワークデー街頭キャンペーンに認定グリーフカウンセラーと共に4人の子どもの参加しました。私も、次男と長女を連れてはじめて参加させていただきました。

事前準備の時から、配布するバイオレットリボンの作成・チラシの準備に関わらせてもらいました。当日、子どもたちは、自分達の作ったバイオレットリボンのついたチラシを張り切って配りました。正直、大人の私が配ってもチラシを受け取ってくれるのはわずか。しかし、子どもたちの持つ力はすごく、道行く人は駆け寄ってきた子どもに「何かな？」と足を止めてくれチラシを受け取ってくれます。募金もしてくださいました。子ども達に向けられる優しい眼差しに、心が温かくなりました。いただいた募金は、喪失を経験した子どもの親・保護者のためのグループミーティング「ひまわりミーティング」の活動資金に繋がります。私達人間は日々、様々な喪失を経験します。中には、どのように対応して良いのかわからないほどの大きな喪失もあるでしょう。それは子どもたちも同じことです。大切な人やかけがえのないものを失ったなどの喪失を経験した子どもたちがいれば、その存在に気づき、しっかり支えてあげたい。と、私は思います。そのために、私達の活動を多くの人に知ってもらい、たくさん活用してもらう必要があります。これは、グリーフワークかがわの行うグリーフワークデーの街頭キャンペーンの趣旨でもあると思います。



素晴らしい活動に子どもとともに参加させてもらい有り難く思います。募金して下さった皆様、ありがとうございました。今後も、活動に励みます。

認定グリーフワークカウンセラー 三嶋麻実

グリーンワーク・デー街頭キャンペーンに参加して

今回初めて3月13日（日）に行われたグリーンワーク・デー街頭キャンペーンに保育園児の息子と参加させていただきました。

3月らしい日差しで暖かく、寒さを気にせずに活動できたのは幸いでした。

なにぶん、初めての参加だったので、当初は何をすれば良いか全く分かりませんでした。しかしながら、他の会員の方々がしっかり準備されていたおかげでスムーズに活動を始めることができました。ご準備いただき、ありがとうございました。

活動を通じて、やはり普段し慣れない事、道ゆく方々に声をかけるのは気恥ずかしさが優先し難しいと感じました。その点に関して、子どもたちが躊躇なく声をかける様は頼もしくもあり、見習うべき点と感じました。大人より子どもが声をかけた方が足を止めてくれる方も多く、また、寄附に繋がる事が多かったように思います。このような活動をする上で子どもの力は絶大だということを改めて認識させられました。息子は年齢の近いお友達もいたことでかなり自由に楽しんでいましたが、途中途中の暴走が親としてはヒヤヒヤしておりました。

お声がけした方々の反応も様々でしたが、足を止めてくれた方はチラシに目を向けてくれる事が多かったように思います。ですが、『グリーンワーク』という言葉があまり一般的ではないためか、足早に離れる方も多く見受けられました。医療や福祉などの世界では一般的に使われるグリーンワークという言葉もまだまだ世間には浸透していないのだなと感じました。

グリーンワーク週間に関わらず、これからも日々日常の中でグリーンワークを広めていけるよう活動したいと思います。

認定グリーンワークカウンセラー 恒石抄恵

技術援助 2021年度ゲートキーパー普及啓発事業報告

2022年3月18日（金）NPO法人いのちの応援舎 (<http://hinata-bokko.jp/>) において香川県精神保健福祉センター主催によるゲートキーパー普及啓発事業が行われ、当法人から講師として杉山洋子、ローマ真由子が派遣されました。テーマは「自殺予防の基礎を学ぶ～自殺予防のために私たちができること～」、受講対象者は職員17名（うち2名はオンライン参加）でした。

最初に精神保健福祉センターから香川県の自殺の現状について報告と説明があり、引き続きグリーンワークかがわとして杉山が講義を、ローマが演習と質疑応答を担当しました。

まず、私たちは暮らしの中でさまざまな喪失を経験し、そこには人それぞれの事情と悲嘆の姿があること、他人からすれば些細な事でもその人にとっては強い孤立感や絶望感に襲われることもあること、死にたくなるほど苦しくなることは決して特別なことではなく、また、喪失は人生の華やかな場面にもあり得ることにも触れ、グリーンワークはだれもが当事者であるということを伝えました。

そしてあらためて、代表の方に、この講座を開いたきっかけについて尋ねたところ、対人支援の現場で現在直面している課題について語られ、「悩んでいる方に、どのような声かけをしたらいいの

だろうか」「気持ちをどう受け止めたらいいのだろうか」という意見交換の場となりました。

後半では、サポートする側のセルフケアについて考えることを目的に、自分の喪失を振り返る時間を作りました。その演習を通して、自分は今まで色々な事を経験し、自分なりに乗り越えてきているという気づきが生まれました。自分を労うことが自分の心の健康につながると確認できる機会となりました。

グループ討議では、職場の中でお互いに支えあう大切さと、今実際に支えられているという実感が語られる場面もあり、終了後には「気持ちが少しすっきりした」という意見も述べられました。

今回、講師を担当して、ひとつの職場で職員研修の場を持つことの意義を、改めて認識しました。対人支援の実践の中で迷ったり悩んだりする経験が研修の動機となっており、代表者が、スタッフを前にその動機を語ることでスタッフへの労いが伝わっているように感じました。スタッフが誠実に事例に対応しているからこそ深く考え、なんとか解決への道を探っている、そのことを代表者が理解し、こうした研修の場と時間を作ることで、それはスタッフの日々の努力への敬意に他ならないと思います。私たちにとっても会場での対話から気づきをいただく機会となりました。心から感謝申し上げます。（文責：杉山洋子）

報 告

◆2022年3月13日 第169回理事会◆

《審議事項》

第1号議案 会計報告に関する事項

2月の会計報告があった。寄付の扱いについてお礼状を発行できる形で受け取るよう周知すること、寄付金領収書再発行については原則再発行は認めないこととすること、支払い調書の作成方法について今後確認していくことのほか、立替払いの精算に関する対応について提案どおりで了承された。

第2号議案 2022年度事業と決算に関する事項

2月末現在の事業報告があり了承された。香川県地域自殺対策強化事業補助金の実績報告の期日が4月10日のため、これまでに整理し報告予定としている。

第3号議案 2022年度会計担当並びにコンサルテーションに関する事項

岡山NPOセンターの事務支援センターへ、2022年度の会計作業のコンサルテーションの見積もり依頼を行い、実地指導を年間に4回行うこと、会計と事務局業務について理事で分担していく方針で了承された。

第4号議案 GWK相談員制度規則（案）に関する事項

第168回理事会での審議を踏まえた修正案に基づき、理事長より説明され了承された。

第5号議案 GWK相談員資格制度施行細則（案）に関する事項

修正案について審議を行なった結果、一部訂正の上、施行することで了承された。今後、関連の委員会は理事を中心に構成していく。

第6号議案 給与規程に関する事項

給与規程案について理事長から説明があり情報収集と指導を得る必要があり継続審議となった。

第7号議案 2022年度認定カウンセラー研修に関する事項

教育研修担当理事から2022年度年間計画案が提案され、認定カウンセラー会議で新任のグリーンフカウ

ンセラーにも資格更新の条件と研修の案内を行えるように準備していくことで了承された。

第8号議案 2022年度グリーフカウンセラー養成講座・基礎コースに関する事項

2022年度のグリーフカウンセラー養成講座・基礎コースについて、例年通り、9月末から10月11月の毎週木曜、全6回18時半～20時半開催のスケジュールで進める方針で了承された。例年会場としているサンポートホール高松が耐震工事のため2年間の休館となることから、香川県社会福祉総合センターの研修室の予約を進める。

第9号議案 第18回社員総会に関する事項

第18回社員総会について、6月12日(日)13時-15時を予定し、会場は、高松市生涯学習センターの研修室を確保する方針で了承された。総会後の理事会も同会場で開催する。監査の日時については今後調整する。

第10号議案 技術援助事業についての事項

技術援助の依頼方法について、原則講師の個人指名ではなくグリーフワークかがわへの依頼として受理し、担当理事から講師担当者の希望を募る形での調整方法で継続していく方針とすることで了承された。担当講師は技術援助提供後のレポート提出を義務とする。

第11号議案 雇用契約等に関する事項

岡山NPOセンター及び監事からの指摘を受け、労働基準局及び各機関へ確認した結果の報告があった。今後の委託契約の内容について検討していく。

◆2022年3月20日 第111回認定カウンセラー会議◆

1 2月の事業報告

相談、技術援助、普及啓発、人材育成各事業について報告を行った。

2 周知事項

理事会から、グリーフカウンセラー制度規則、グリーフカウンセラー資格施行細則、2022年度認定カウンセラー研修案について説明があった。

3 技術援助について

講師派遣依頼が増えてきており認定カウンセラーとして積極的に担当していくことが望まれる。

◆第13回認定カウンセラー研修◆

・2022年3月20日、GWK刊行の「喪失と悲嘆のためのガイドブック」をテキストとして議論した。